

(上期国内線旅客状況から)

JAL・ANA 羽田線とスカイマークの実績

2016年11月30日

国内線の2016年度上期旅客実績から、注目すべきと考えられる点をピックアップした。

1. 好調なスカイマーク

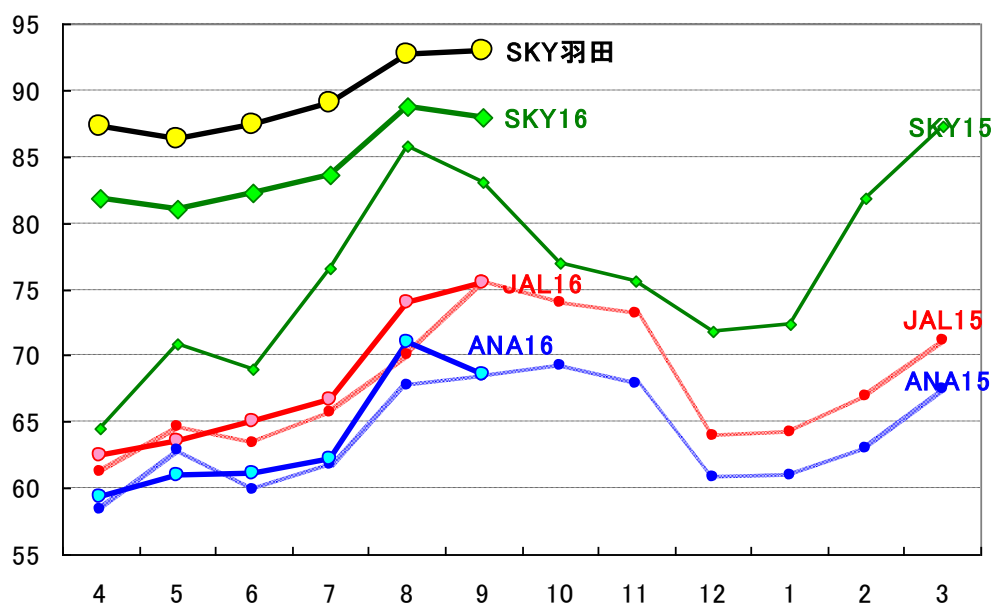
破綻から立ち直り、2015年度には営業黒字化を達成したスカイマークの勢いが増している。

上期搭乗率は全ての月で80%超を達成した。

昨年上期に比べると約10ポイントも高いレベルであり、大手2社と比べても各月20ポイント以上高い。

中でも羽田線は全ての月で85%を超え、8~9月は90%超となっている。

《図表1》3社の国内線搭乗率の月別推移



2. 影響を受けたか、JALの羽田基幹路線？

羽田発着の主要 5 路線（札幌・福岡・大阪・那覇・鹿児島）について、前期対比で旅客増減をみると；

- ・札幌&福岡線は JAL/ANA とともに旅客減となっている。
- ・JAL はその他の 3 路線でも減少、ANA は鹿児島線では減少したが、大阪&那覇線では増加。
- ・結果的に JAL の減少幅が大きい。

JAL はこれら 5 路線への依存度が大きい（国内線総旅客数の 36%）ことから、この旅客減が上期減益理由の一部にもなっているのではなかろうか？

《図表 2》 JAL&ANA の上期国内線旅客増減

		JAL上期			ANA上期		
		旅客数	増減	率	旅客数	増減	率
		千人	千人	%	千人	千人	%
羽田	札幌	1,552	-73	96	1,835	-43	98
	福岡	1,386	-47	97	1,566	-24	99
	伊丹	1,192	-47	96	1,339	0	100
	関西	121	37	144	306	39	115
	那覇	1,167	-4	100	1,220	78	107
	鹿児島	382	-16	96	337	-19	95
(5路線計)		5,800	-150	97	6,603	31	100
		(36%)			(31%)		
その他路線		10,331	198	102	14,917	-62	100
国内線合計		16,131	48		21,520	-31	

以上